

平成 21 年 5 月 30 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2008

課題番号：19730522

研究課題名 (和文) 留学生教育におけるポピュラー・カルチャー教材の取り入れ

研究課題名 (英文) Establishment of Popular Culture Studies for International Exchange and Education

研究代表者

長池 一美 (NAGAIKE KAZUMI)

大分大学・国際教育研究センター・准教授

研究者番号：90364992

研究成果の概要：この研究では、日本の高等教育機関における留学生教育の一環として、日本のポピュラー・カルチャー教材を取り入れた、新たな日本社会・文化教育の授業モデルの構築を目指し、さらに日本ポピュラー・カルチャー研究の学術的確立の可能性を探った。また、様々な文化的バックグラウンドを持つ留学生が共に学ぶと言う、多文化共生教育が日本ポピュラー・カルチャー授業でいかに可能であるのかについての研究を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	500,000	0	500,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,000,000	150,000	1,150,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：多文化教育

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本に留学する学生の主な留学動機に日本のポピュラー・カルチャーへの興味が挙げられるが、留学生がどのように日本のポピュラー・カルチャーを学ぶことを期待しているかについての調査・研究を行う必要性があった。

(2) 国際的視野から日本のポピュラー・カルチャー教育を研究するために、海外の高等教育機関でいかに日本のポピュラー・カルチャー

ーが教育教材として取り入れられているかについて調査を始めたが、先行研究がほとんど見当たらなかったために、独自での調査・研究を行う必要性を認めた。

(3) 日本のポピュラー・カルチャーを留学生教育の科目に取り入れた日本の大学は大変少ないことが分かり、また日本ではポピュラー・カルチャーの分野自体が大学などの高等教育機関で十分に論議・議論されている状況とはいいい難いため、日本ポピュラー・カルチャー

ヤー研究の確固たる学術的基盤の確立に取り組む必要性を認めた。

## 2. 研究の目的

(1)日本の高等教育分野でいまだ確立されていないポピュラー・カルチャー教育を留学生教育に取り入れることが可能となる教育方法についての研究を行う。

(2)様々な文化的バックグラウンドを持つ留学生が共に日本ポピュラー・カルチャーを学ぶ教育環境において、いかに「多文化共生教育」が成立するかについての研究を行う。

(3)日本の高等教育分野では留学生教育の分野において、ポピュラー・カルチャー教育の可能性、もしくは有効性が十分に議論されている状況とは言い難い。日本ポピュラー・カルチャーを題材とした教育の充実化がいかに可能であるのかについての研究を行う。

## 3. 研究の方法

### (1)データの収集

①大分大学の留学生また日本人学生を対象にポピュラー・カルチャーについての調査を行った。調査はアンケートによる日本ポピュラー・カルチャーの認識調査や実際にポピュラー・カルチャー教材を使用した授業を評価する方法で行った。また、学生ヘインタビューを行い、詳細なフィードバックを得ることができた。

②英語圏の高等教育機関で日本研究を教授している研究者を対象に、授業でどのようにポピュラー・カルチャー教材を取り入れているかについてのデータ収集を行った。

③ポピュラー・カルチャーの国内外での経済的な影響についての調査を行った（マンガの発行部数やアニメーション、テレビプログラムの視聴率調査、また関連商品の市場流通など）。

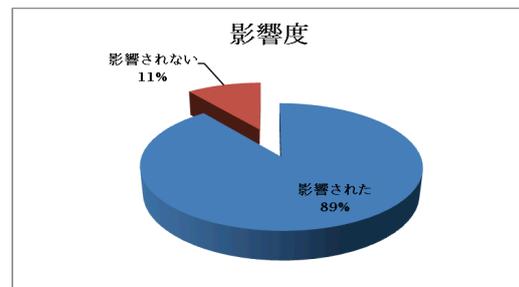
### (2)収集データの分析とモデル授業の実施

①収集したデータを分析し、その分析を踏まえたモデル授業を実施した。またその授業について学生からのフィードバックを得た。

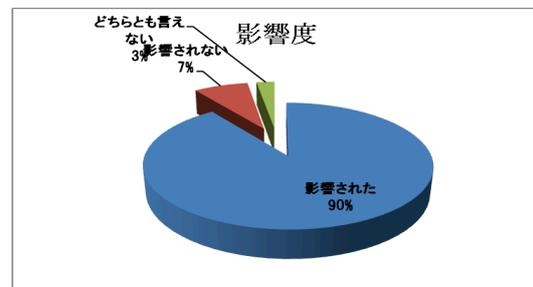
## 4. 研究成果

(1)ポピュラー・カルチャーの影響と日本語学習への動機：アンケート調査を行った留学生の内（約100名の学生）92%の学生が日本語学習への動機にマンガ、アニメ、ドラマなどの日本ポピュラー・カルチャーが影響していると述べている。このように、「ソフト・パワー」としての日本ポピュラー・カルチャーの在り方について再認識することができた。例として、担当授業で行った、「日本語学習におけるポピュラー・カルチャーの影響度」についての調査データを挙げる。

【Japanese Popular Culture B】



【日本事情 B】

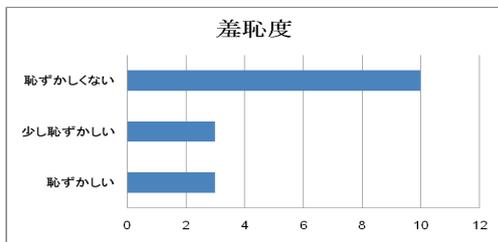


(2)海外の高等教育機関における日本ポピュラー・カルチャー教材の取り入れ：調査を行った英語圏の10大学では10大学とも日本研究の授業でマンガ、アニメなどの日本ポピュラー・カルチャーを教材に取り入れていることが分かった。10大学中8大学では授業で日本のアニメを教材にしており、これらの大学では、宮崎駿作品、*Ghost in the Shell*、*Akira*などを題材にした授業が行われていた。また、一つの大学では、「日本古典文学」の授業で、マンガ化された『源氏物語』『和泉式部日記』などを授業に取り入っていた。こ

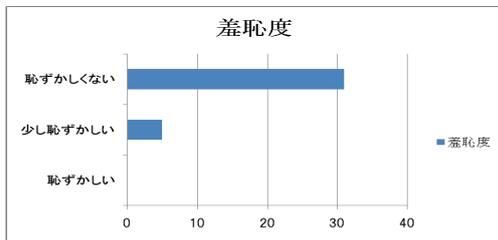
の調査・研究によって、海外の高等教育機関（英語圏）では、日本研究学の一分野として、日本ポピュラー・カルチャー教育がある程度確立していることが分かった。

(3) 多文化共生教育の必要性：留学生へのアンケート・インタビュー調査、また授業に対するフィードバックから多文化共生教育の必要性が認識された。例えば、性的な表現を含むマンガを題材とした授業で見られる異文化間の相違についての研究では、アメリカ・ヨーロッパの学生が「全く恥ずかしくない」と回答している一方で、インドネシア、マレーシアの学生が「少し恥ずかしい」「恥ずかしい」と回答している。以下は担当している授業で行った、「性描写を含んだマンガに対する学生の意識調査」の結果である

【Japanese Popular Culture B】

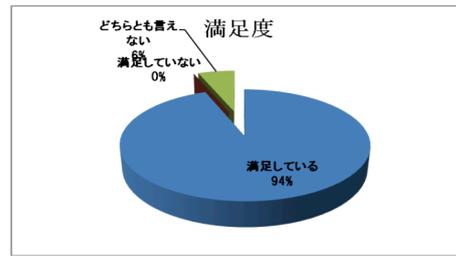


【日本事情 B】

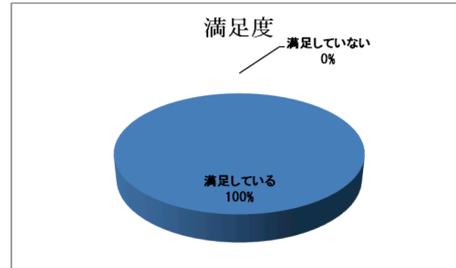


また、性的なマンガを教材として学ぶ授業では、これらのマテリアルのページを捲ることさえ拒んだ学生がおり、アンケート・インタビュー調査・研究で、ムスリム学生に対する教育方法の再考が必要であることが分かった。授業では、積極的な参加の姿勢を示さない日本人学生に、留学生が多少の不満を持っていることが分かり、留学生は日本人学生との知的なインターアクションを求めているという分析結果を得た。また、多文化共生を理念としたモデル授業の評価では、以下のように、94-100%の学生が「大変満足している」と回答している。

【Japanese Popular Culture B】



【日本事情 B】



このように、留学生を対象とした日本ポピュラー・カルチャー教育は多文化共生問題を考えずに、発展することはないとの結論に至った。

(4) 日本ポピュラー・カルチャー研究の学術的・確立の可能性：学生ならびに海外の高等教育で日本研究学を教授する教員のアンケート・インタビュー調査で明らかになった点は、日本ポピュラー・カルチャー研究を学術的分野として認識する必要性である。学生へのアンケートでは、99%の学生が、「日本のポピュラー・カルチャーを学ぶことによって、「日本の文化的・社会的な構造に関する知識を深めることができた」と評価している。また、海外の教育者も、アニメやマンガを日本の「ソフト・パワー」として認識し、日本ポピュラー・カルチャー教育の必要性と有効性について指摘している。例えば、オリジナルの『源氏物語』を使用した授業よりも、マンガ化された『源氏物語』を使用した授業の方が、学生の理解度が増すと言った指摘もあったが、今後更なる分析が必要となるテーマである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 3件)

- ① 長池一美 「留学生を対象とした日本大衆文化(ポピュラー・カルチャー)教育における多文化共生の現状とその課題」、『第8回国際日本語教育・日本研究シンポジウム』、2008年11月8日、香港大学
- ② 長池一美 “Representations of Constructed Others and Absent Others in Japanese *BL Manga*: Signs and the Consumption of Images of Foreigners,” Japanese Transnational Fandoms and Female Consumers シンポジウム、2008年7月3日、University of Wollongong
- ③ 長池一美 “Stylized Fighting Magical Girls in Japanese Animation,” 2007年6月7日、オックスフォード大学オリエンタル研究学科、招待講演

〔図書〕(計 1件)

- ① 長池一美、「多文化共生社会のポピュラー・カルチャー：留学生を対象としたポピュラー・カルチャー教育における多文化共生の現状と課題」、『日本語教育スタンダードと多文化共生リテラシー：グローバル化社会の日本簿教育と日本文化』(共著、ひつじ書房)、2009年6月刊行予定、査読有り、pp. 155-173

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長池 一美 (NAGAIKE KAZUMI)

大分大学・国際教育研究センター・准教授  
研究者番号：90364992